

夢を現実にした3人 それぞれのこだわり

藤本 ビニールハウスでの野菜栽培に力を入れる大川さん、千歳では珍しい切り花の生産に取り組む東海林さん、広い土地での農業を目指す假屋さん。皆さんのこだわりなどを聞かせてください。

大川 現在は14棟のビニールハウスがあり、将来的にはもう少し増やしたいと思います。ハウス栽培は天候の影響を受けにくく、栽培の技術があれば安定して良い物がつくれます。逆に言えば自分自身の技術が問われます。野菜の中でも特にアスパラ

の栽培技術を身につけたいです。

東海林 研修先の農家で出会ったトルコキキョウの美しさにひかれ、勤めている法人のオーナーに「どうしても花の生産がしたい」と伝えました。花は見目が命です。葉の一枚が痛んでも商品になりません。難しいからこそ挑戦を続けたいです。

假屋 今年は以前から育ててみたいと考えていたビートの生産をはじめました。いろいろなことに挑戦できるため、やりがいがあります。また、東丘には自分の描いていた「北海道らしい農業」の印象に近い大規模農業

を営む方が多く、この地に就農して良かったと実感しています。

藤本 東丘のような丘の続く景色は、石狩管内ではほかにあまり見かけないですね。反対に、比較的市街地の近くで就農した大川さんはどうですか。

大川 札幌という大都市に近く、販売がしやすいことは大きな利点だと思います。また、妻は市内の会社に勤めており、通勤にも便利です。

「失敗できない」重圧と 周囲の期待の中で

藤本 就農の夢を実現しただけでも大きな一歩ですが、いざ就農すると大変なこともたくさんあると思います。

假屋 最初の数年は、大きな失敗を一度でもしてしまうと土地や資金を借りられなくなりそうです。農業が好きで、一生続けていきたいと思っているからこそ「絶対に失敗したくない」という重圧があります。今はまだ、農業を楽しめる段階ではないですね。また、住む家や土地を貸していた方がいい方、「頑張

→小麦の生育状況を確認する東海林さん。出穂が始まっているのを見て「そろそろ防除の時期」という。



れ」と声をかけてくれる方など、地域の皆さんの思いを日々感じているので、それに応えたいという気持ちがあります。

大川 野菜をつくるために必要な物を買ひ、農作業を手伝うパートナーを雇うには資金の蓄えが必要です。昨年はハウスを建てるなどの準備に追われたため、まだ家族が生活できるほどの稼ぎはありません。今年は蓄えができるよう、収支の面で良い結果を出したいです。

→トルコキキョウは夏と秋に分けて出荷する。花が4つ開いた「4輪咲き」の状態での出荷が基本。8月中旬の出荷に向け、ハウスの中で1万6千本の花を1本ずつ丁寧に仕立てる。



↑「以前勤めていた牧場の取引先で出会った『ゆでアスパラ』の味に感動した」という大川さん。経費節約のため、野菜を育てる14棟のハウスは自分で建てた。



→ほうれんそうの生育状況を見る藤本指導員と大川さん。葉や土の状態などを鋭いまなざしでチェックする。